

二〇〇八年二月二七日（奈良東大寺）

淡雪や二月堂への石畳	粲
冬ざれて人影もなし浮見堂	〃
白壁のつづく社家町風花す	菜々
二月堂散華のごとく春の雪	〃
春火鉢抱く堂守二月堂	けんいち
雛飾るならまち通り骨董店	〃
参道に木の芽吹きをる二月堂	わかば
金の鴟尾対の大屋根風光る	まさる
仁王像開く指先春の塵	宏虎
薄っすらと若草山に春の雪	きづな
吟行の仲間とすする茶粥かな	ひかり
寄り来たる春鹿耳を凜とたて	つくし
彫深き仁王の顔の春の塵	満天

吟行句会みのる選

二〇〇八年二月二七日（奈良東大寺）